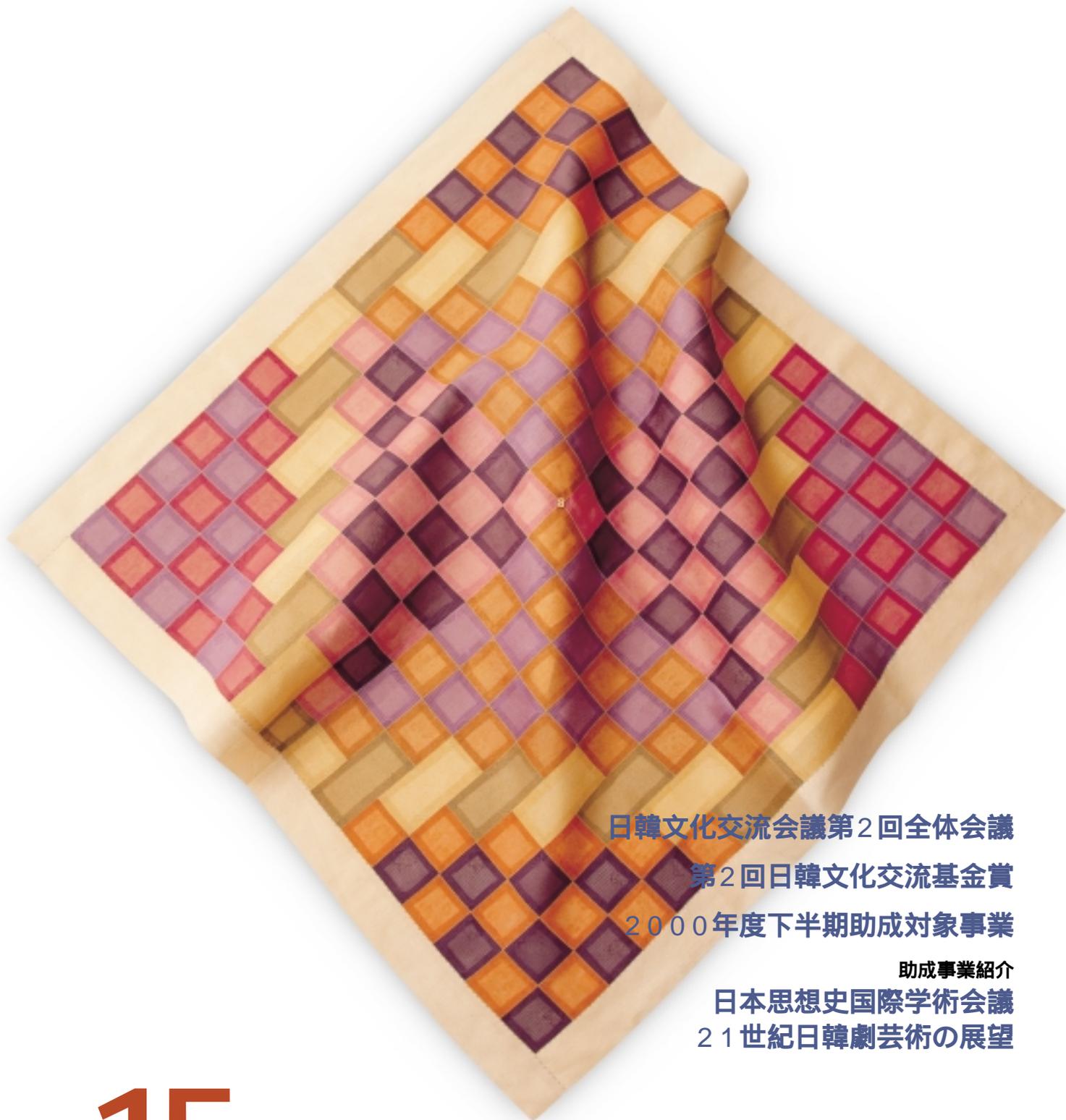


財団法人

日韓文化交流基金 NEWS



日韓文化交流会議第2回全体会議

第2回日韓文化交流基金賞

2000年度下半期助成対象事業

助成事業紹介

日本思想史国際学会議

21世紀日韓劇芸術の展望

no. 15

2000

The Japan-Korea Cultural Foundation

表紙作家紹介

金賢姫 (キム ヒョンヒ)

1946 韓国京畿道生まれ。18歳の時から、刺し作家としての道を歩み始める
 1984 第9回韓国伝統工芸展に入選。以後毎年、奨励賞、特別賞などの受賞を重ねる
 1990 東京の島屋にて「韓国伝統工芸展」招待展
 1994 国務総理賞を受賞
 1995 東京の韓国文化院にて個展
 1996 ソウルの一民文化院にて個展
 1999 『韓国のパッチワーク～ボジャギ』出版(文化出版局)
 現在、刺し・ボジャギの「名匠」として作家活動を行うかたわら、伝統工芸建築学校にて後進の指導に当たっている

表紙作品



亢羅チヨガッポ 92×92センチ 1993年
 表紙撮影：藤 正三

日韓文化交流基金NEWS

目次

2	巻頭エッセイ カボチャ! みんなく	朝倉敏夫
	作家紹介および表紙作品題名	
3	日韓文化交流会議第2回全体会議	
4	第2回日韓文化交流基金賞	
5	2000年度下半期助成対象事業	
6	助成事業紹介 日本思想史国際学術会議 - 思想的側面から見た韓日関係	河宇鳳
	21世紀日韓劇芸術の展望 - 歴史から何を学ぶか -	平田オリザ
8	調査ノート 日本における韓国・朝鮮研究 研究機関編 1	
9	文化エッセイ 第4回(最終回) 実名の韓国、匿名の日本	原 武史
10	日韓文化交流基金事業報告	
12	図書センター情報	



この春、大阪の万博公園にある国立民族学博物館(略称「みんなく」)の東アジア展示「朝鮮半島の文化」をリニューアルした。一九八三年に開設されたこれまでの展示は、衣・食・住といった生活文化とともに、朝鮮半島の伝統的社会における儒教と民間信仰という「文化の二重性」を基本コンセプトとしていた。今回の展示では、巫俗(シャマニズム)を基層文化とし、儒教、仏教、キリスト教が伝来した「歴史と文化」を展示するとともに、それらが現代の韓国社会に活かしている「文化の重層性」を表現してみた。パティオと呼ばれる中庭には、伝統的社會の居酒屋である「酒幕」を再現した。展示のために屋根を草葺きにできず、オンドル(床暖房)も電気パネルによるものだが、酒幕にあがってゆったりとした雰囲気味わってもらえるように展示した。

展示場で「もの」の解説を聴ける「電子ガイド」と、もっとくわしい背景を映像で知ることのできる「ビデオテーク」のプログラムも充実させた。

さて、展示ができたあと、日本人ばかりでなく、「在日」の方、そして韓国からも

巻頭エッセイ
カボチャ!
みんなく

国立民族学博物館
 民族社会研究部助教授
朝倉敏夫

多くの皆さんに来ていただくことを願ってポスターとちらしを作った。
 韓国語のカボチャ(行ってみよう)とカボチャをかけて、「カボチャ! みんなく」をキャッチコピーにした。そして、韓国のカボチャであるホバクを図柄にした。

辞書をひくと「ぶす」「おかめ」といった意味もあるホバクだが、チュク(お粥)にしたり、実以外にやわらかい葉や芽も食用にするなど、韓国では広く好まれている。

ところで、韓国にはホバクを使った諺がいくつがある。「ホバクのおひたしを作るのに苦労する」。無駄なことにひとり一生懸命になって腹を立てることの意だ。展示作業の途中で何度そんなことがあったことか。「ホバクに鍼」。これは糠に釘の意だ。いろいろ仕掛けをこらした展示なのに、観覧者から何の反応もなかったらどうしよう。

でも、最後の一つ、「ホバクが転がる」。これは思いがけない授かり物を得たり、予期しない幸運にめぐりあったりするという意味だ。この展示を見に来てくれたら、きっとそうなるよ。

「カボチャ! みんなく」には、こんな私の気持ちも込められている。

あさくら としお

一九五〇年生まれ。明治大学大学院政治経済学
 研究科博士課程単位取得。主な著書に、『食は韓国にあり』(共著)、『日本の焼肉 韓国の刺身』、『韓国を知るQ&A115』などがある。

日韓文化交流会議第2回全体会議

日韓両国の国民・文化交流のさらなる拡大・増進のための方策を協議する場として昨年六月に発足した日韓文化交流会議の第2回全体会議が、六月九日、東京のホテルニューオータニで開催されました。

今回の会議では、昨年開かれた第1回全体会議でその推進が合意された文化交流事業の両国国内での進捗状況について報告が行われるとともに、今年一月の合同運営委員会において、今後の日韓文化交流のあるべき方向性を提示することを目的にその作成を推進することが同意された「日韓文化交流のための提言」に関する初めての意見交換が行われました。

午前のセッションでは、文化交流事業

の進捗状況について両国の事務局長が報告を行い、これまで古美術の交換展、宮中音楽の演奏会などについては事業の推進主体となる両国の関係機関の間で具体的な協議が行われており、二〇〇一年までの開催を目標に準備が進められていることが確認されました。

また、午後のセッションでは、まず、日本側の三浦朱門座長が、「日韓文化交流のための提言」制定を提案するに至った背景について、「日韓文化交流会議においては、具体的な文化交流プロジェクトの提案・推進にとどまらず、何か別の形のものを残すべきではないか」と説明し、今後これを推進していくことで両国の委員より同意を得



全体会議の様相



裏千家東京道場での茶会。左から池明観韓国側座長、三浦朱門日本側座長、金容雲韓国側副座長



家元ご自身のお点前。左から千宗室委員、池明観韓国側座長

日韓文化交流会議第2回全体会議

日時：2000年6月9日（金）

9:30～9:40	開会の辞 日本側：三浦朱門座長 韓国側：池明観座長
9:40～10:40	第1部 「第1回全体会議合意事項の進捗状況」 司会：池明観座長
10:50～11:45	引き続き「第1回全体会議合意事項の進捗状況」
12:00～13:00	山本一太外務政務次官主催午餐会
14:00～14:30	森喜朗総理大臣表敬（於：総理官邸）
15:10～16:00	第2部 「『日韓文化交流のための提言』について」 司会：三浦朱門座長
16:10～17:00	引き続き「『日韓文化交流のための提言』について」
17:00	閉会
17:30～18:00	記者会見
18:30～	崔相龍駐日韓国大使主催晩餐会 （於：韓国大使公邸）

ました。その後、この日のために準備された第一次草案をたたき台として熱心な意見の交換が行われ、今後両国国内での意見調整および合同運営委員会を通じて引き続き協議を行い、来年ソウルで開催される予定の第3回全体会議にてこれを採択することを目標にするということ合意しました。

また、会議前日の八日には、茶道裏千家の東京道場において千宗室委員の主催による韓国側委員歓迎晩餐会が開かれ、両国の委員が茶道のお点前でもてなされました。会議は、今後両国国内での意見調整、両国メンバーの代表による合同運営委員会を重ねた上で、二〇〇一年にソウルで第3回全体会議を開催する予定になっています。

第2回日韓文化交流基金賞

第2回日韓文化交流基金賞受賞者が洪性穆氏（ジャーナリスト・漢学日報論説顧問）、

金梅子氏（舞踊家・創舞芸術院理事長）、

良旭氏（出版人・ベターブック代表、日本文学研究所所長）に決定し、八月二十四日にホテルロッテ（ソウル）において授賞式が行われました。

この賞は、韓国において日韓両国間の文化交流に多大な貢献をした個人に対し、その功績を内外に顕彰するとともに今後の活動を奨励するため、当基金が一九九九年に設置いたしました。

受賞者には正賞の盾と、副賞として賞金三百万ウォンと日本への九泊十日の招待旅行の目録が伝達されました。



左から藤村正哉基金会長、洪性穆氏、金梅子氏、曹良旭氏、
（写真提供：聯合ニュース）

受賞者のプロフィール



洪性穆（ホン ソンモク）

受賞理由

一九七〇年代初め、済州島と日本との交流が少なかったころから、日本の数多くの民間団体との交流、人脈形成に尽力し、日韓両国間の章の根交流に寄与貢献した。また、在釜山日本総領事館による「日本紹介事業」、「日本軍人・軍属遺骨収集作業」に積極的に支援協力し、長年にわたる日韓の友好親善交流に尽力した。

経歴

- 一九三三年 済州生まれ
- 一九五三年 済州農業高等学校卒業
- 一九五三年 耽羅新聞勤務
- 一九五四年 済州新聞勤務
- 一九六〇年 済民日報勤務
- 一九六二年 済州新聞勤務
- 一九八一年 同論説委員
- 一九八九年 漢学日報論説委員
- 一九九五年 同主筆
- 一九九九年 同論説顧問（現）

『歩みながら振り返って』（一九八四年）



金梅子（キム メジャ）

受賞理由

長く舞踊による日韓文化交流に従事し、最近では能との競演（一九九九年九月、ソウル）、日韓合作映画「伝説の舞姫 崔承喜 金梅子が追う民族の心」に主演するなど、舞踊芸術交流に貢献した。伝統を受け入れながら常に新しいものを創造・追求している現代韓国舞踊の第一人者である。

経歴

- 一九四三年 江原道高城生まれ
 - 一九六六年 梨花女子大学校韓国舞踊科卒業
 - 一九六八年 慶熙大学大学院修士課程修了
 - 一九七〇年 梨花女子大学校舞踊科教授
 - 一九七六年 舞踊団体創舞会設立
 - 一九八二年 韓国舞踊研究会設立（初代理事長）
 - 一九八三年 米国ニューヨーク大学博士課程修了
 - 一九八八年 ソウルオリンピック閉幕式総括振付
 - 一九九七年 創舞芸術院理事長（現）
 - 二〇〇〇年 山本安英賞受賞
- 著書・主要作品
- 『韓国舞踊史』（共著、三津閣、一九九五年）
 - 代表作として創作舞踊「空（息）」、「空の雪」新しい千年、年を呼ぶ踊り」など



曹良旭（チョ ヤンウク）

受賞理由

朝鮮日報文化部記者、国民日報東京特派員、同文化部長を歴任、多数の日本体験記を著し、韓国における若手の知日派として知られるとともに、近年は日本の良書の翻訳・出版を行い、日本紹介のための出版活動を展開している。

経歴

- 一九五一年 釜山生まれ
- 一九七〇年 韓国外国語大学校日本語学科卒業・同大学院卒業
- 一九七八年 共同通信ソウル支局勤務
- 一九八三年 朝鮮日報文化部記者
- 一九八八年 国民日報東京特派員
- 一九九二年 同文化部長
- 一九九五～九七年 高麗苑日本文化研究所所長
- 一九九七年 日本文化研究所所長（現）、ベターブック代表（現）

著書

『日本レポート（ハンケル世代特派員の新日本探検）』（チョンハン文化社、一九九一年）、『千の顔、日本、日本』（チョンハン文化社、一九九三年）、『日本キワード』これが日本だ。（高麗苑、一九九六年）、『悪口を言いがら学ぶ日本』（ベターブック、二〇〇〇年）ほか。翻訳書に、陳舜臣『江は流れず』（マダソン、一九八三年。原題は『江は流れず』小説日清戦争）、中央公論社（一九八一年）、永井隆『ロザリオの祈り』（ベターブック、一九九九年。原題は『ロザリオの鎖』、サンパウロ、一九八七年）ほか。

2000年度下半期助成対象事業

2000年度下半期（10月～2001年3月）には、25件の交流事業に対して助成を行うことが決定いたしました。

交流会 6件			
事業名	申請団体	実施期間	開催場所
日韓青少年交流及び健全育成事業	(飯田市)日韓友好推進協会	2000/11/3-11/5	長野県飯田
韓国浦項工科大学学生研修団の訪日研修	韓国浦項工科大学校	2001/1/10-1/20	東京、京都、つくば学園都市
韓日新世代交流 「第7回韓日新世代フォーラム」事業	釜山韓日文化交流協会	2001/1/12-1/21	京都、奈良、大阪ほか
大真大学建築工学科<日本建築文化研究会> 日本現地建築視察・文化体験第3期	大真大学建築工学科日本建築文化研究会	2001/1/5-1/19	福岡、大分、兵庫、大阪、京都、奈良、東京
“日韓学生”交流の旅 ～交流の歴史を確かめ新しい絆を結ぶ～	日韓市民ネットワーク・なごや	2001/2/21-2/26	大邱、天安、公州、扶余、ソウルほか
韓国歴史文化探訪	新韓学会	2001/3/6-3/6	ソウル、扶余、光州、安東

シンポジウム・国際会議・学会会議 6件			
事業名	申請団体	実施期間	開催場所
韓国日本文学会2000年度秋季国際学術大会	韓国日本文学会	2000/10/20-10/21	ソウル・祥明中学校
20世紀日・韓演劇比較学術会議	成均館中学校公演芸術研究所	2000/10/27-10/28	ソウル・成均館中学校
アジア民間説話学会第6回国際大会 (韓国ソウル大会)	アジア民間説話学会日本支部	2000/10/28-10/29	ソウル・国立民俗博物館講堂
世界化・地域化時代の北東アジアの新秩序と 韓日関係	現代日本学会	2000/11/27-11/28	東京
愛知教育大学歴史学会日韓学術・文化交流事業	愛知教育大学歴史学会	2001/2/22-2/26	晋州・晋州教育中学校、ソウル・韓国教育評価院
Global Governance研究Project - 日・韓関係とグローバル社会	慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス Global Governance系列	2001/3/29-3/31	ソウル・ソウル中学校、延世中学校

草の根交流事業 5件			
事業名	申請団体	実施期間	開催場所
相互理解を目的とする講演会 横浜・西帰浦地域社会交流会	オンドルの会 横浜キャンプ村	2000/10/8 2000/10/5-10/8	横浜・かながわ県民センター 済州・西帰浦
韓国「伽倻琴」ワークショップ2000	コリア文化サークル「パラセク」	2000/11/3-11/5	川崎・ふれあい館
日韓障害者音楽バンドの親善交流と バリアフリージョイントコンサート	サルサ・ガムテープ後援会	2000/12/6-12/11	横浜・横浜ベイホールほか
日韓代案(オルタナティブ)教育交流事業	東京シュレ	2001/3/22-3/26	ソウル・ハジャセンターほか

文化交流事業 8件			
事業名	申請団体	実施期間	開催場所
日韓文化交流フォーラム: 副都心黒崎まちづくり文化事業 - 上々颱風&プリ ジョイントコンサート	副都心黒崎開発推進会議	2000/10/5	北九州プリンスホテル アリーナ
歌舞伎舞踊ワークショップ公演	舞藝舎	2000/10/8-10/11	ソウル・中央中学校
日本の伝統文化“てまり”の紹介:展示と講習	日本てまり文化振興協会	2000/11/5-11/11	ソウル・日本大使館ギャラリー
日韓若手美術家交流会	吾妻美学校	2000/11/9-11/27	ソウル・日本大使館ギャラリー、木浦
2002年ワールドカップ日韓共同開催記念・ 日韓合同演奏会 - 平和の大会 -	埼玉第九合唱団	2000/11/23-11/26	ソウル・世宗文化会館
日韓女声合唱の夕べ	東京レディース・シンガーズ	2001/2/1-2/4	東京・紀尾井ホール
日本 - 韓国秋吉台プロジェクト2000 2001「ブリッジ」	日本 - 韓国秋吉台プロジェクト2000 2001「ブリッジ」実行委員会	2001/3/14-3/26	山口県秋吉町・秋吉台国際芸術村
ディスカバー@TOKYO	コールセシリア	2001/3/28-3/31	東京・府中の森芸術劇場ほか

日本思想史国際学術会議

思想的側面から見た韓日関係

韓国日本思想史学会副会長

河宇鳳

二十一世紀を目前にし、韓日関係も新しい転換期を迎えている。昨年の金大中大統領の日本訪問以来、日韓新時代が着実に進展し、二〇二二年に両国で共同開催されるサッカーワールドカップ大会はそつじゆう流れをより一層盛り上げてくれるだろう。

韓日両国間の友好と新しい関係のためには、相手の歴史と文化に対する理解が最も重要だということば、いままら言つまでもない。大きく考えるとこの度の日本思想史国際学術会議を開催した目

的もここにあったといえる。

学術会議は五月十二日〜十三日の二日間、韓国忠清北道の清州大学校で開かれた。

学術会議の全体主題は「思想的側面から見た韓日関係」で、さらに二つの小主題で構成された。初日に行われた第一部「歴史と認識」では、近世の時期に両国がお互いの歴史と文化に対していかなる認識を持っていたのかに関し三編の論文が発表された。二日目には、第二部「政治と思想」という主題のもとで、近代以後日本の思想的変貌過程を比較思想的視角からアプローチした論文四編が発表され、引き続き第三部の総合討論が行われた。

インターネットによる情報革命時代においては、思想史研究も一国的視角を超えて全地球的な展望を示すように要求されている。今までのどんな時代よりも比較思想史研究の必要性が増大しているのだ。一方比較思想史研究の基礎作業

会議日程

- 第1部 歴史と認識 司会 孫承詰(江原大)
1. 日本史上の「国王」称号
- 日本中近世を中心に
閔德基(清州大)
 2. 17世紀日本軍記物に現れた壬辰倭乱観
朴昌基(全北大)
 3. 『通譯酬酌』を通じた韓・日訳官の異文化認識
小幡倫裕(平澤大)
- 第2部 政治と思想 司会 趙明哲(高麗大)
1. 近代韓日両国の「攘夷」形態の比較
- 衛正斥邪論と尊王攘夷論 -
金政奎(弘益大)
 2. 「日鮮同祖論」を通じて見た天皇制と韓国
金光林(新潟産業大学)
 3. 丸山真男と近世日本思想史研究
澤井啓一(惠泉女学圏大学)
 4. 日本の社会統治の二重構造
俞珍式(韓国法制研究院)
- 第3部 総合討論 司会 河宇鳳(全北大)
- 孫承詰、金文子(祥明大)、保坂祐二(世宗大)、趙景達(千葉大)、崔在穆(嶺南大)、趙明哲

として交流史的研究が必要であるが、この分野は歴史学の助けを受ける必要がある。すなわち両国の歴史と思想を総合的に理解するためには、歴史と哲学をあわせて学際的なアプローチが必要だ。そのため、韓日関係史学会(一九九二年創設)と韓国日本思想史学会(一九九七年創設)が共同で主催してこの問題を究明しようとしたのである。また比較的な視点と客観的な立場を堅持するために、韓国国内の学者だけでなく、日本と中国の学者を招請して討議を行った。

今回の学術会議はソウルから遠く離れた地方都市で開催されたにもかかわらず、約一五〇名に達する研究者が参加して真剣に発表に耳を傾け、討論に参加することによって研究成果を共有した。また韓国国内の代表的な日本学研究団体である二つの学会が、初めて学術会

議を共同主催することで、両学会の会員

間の交流のきっかけを作ったという点でも少なくない意義がある。学術的には政治・歴史・哲学・外交・文化等、学際的で総合的なアプローチを試みることに、韓国の日本学研究を進歩させる一助となったと考えられる。

今回の学術会議を開催するにあたり、日韓文化交流基金の支援が大きな力となった。この場を借りてもう一度感謝し上げる。



ハ ウボン

1953年生まれ。ソウル大学校史学科卒業。西江大学校大学院史学科修了。文学博士。陸軍士官学校教授を経て、現在全北大学校人文学部史学科教授。韓日関係史学会初代会長を歴任し、現在、韓国日本思想史学会副会長。専攻は朝鮮時代の韓日関係史および実学思想史、著書に『朝鮮後期実学者の日本観研究』ほか多数。



国際学術会議の様相

日韓交流セミナー

21世紀日韓劇芸術の展望

歴史から何を学ぶか

劇団「青年団」主宰
日本劇作家協会理事

平田オリザ

日本劇作家協会は、九四年に設立された若い団体です。どうしてこれまで、この手の団体がなかったのかという話は、日韓の交流とは全く関係がないので、ここでは触れないでおきますが、ともか

く若く新しい団体だということは確かなことです。

韓国の戯曲作家協会は、五十年以上の歴史を持つ団体です。その戯曲作家協会から、共同でセミナーを開こうという

話が来たのが昨年の秋のこと。私たち日本劇作家協会にとっては、初めての本格的な国際交流セミナーになります。

韓国側は、過去にも中国において同様のセミナーを開催してきた実績があり、当初は韓国側からの矢継ぎ早の要求に戸惑ったことも事実です。こちらは、ちよつと理事改選の時期とも重なり、なかなか協会内でのコンセンサスもとれないままに、右往左往しながらの準備となりました。

それでも春には、日本側の発表者も決まり、世田谷パブリックシアターから会場を提供していただけることになり、少しずつ準備が進んでいきました。

とはいえ、とにかく初めての試みなので、どついつた形のセミナーになるのか、そのイメージをつかむことができず、漠然とした感じのまま、当日を迎えてしまいました。

当日のテーマは、「21世紀日韓劇芸術の展望 歴史から何を学ぶか」というものでした。

しかし内容は、韓国側の発表が、植民地支配下の韓国演劇史に集中し、また日本側は、現在の日韓交流を中心に発表してしまつたために、議論はあまりかみ合わないものとなりました。会場からも「展望が示せていないのではないか」という指摘がありました。

ただ、これは開き直るわけではないのですが、お互いが着地点を定めずに、いま考えていること、関心のあることを発表しあつたことは、最初のセミナーとしてはよかったのではないかと思っています。はじめから結論に向かつて進むのではなく、差異から出発することは、演劇を生業とする私たちにらしい営みだといえるでしょう。

セミナーのあとのレセプションで、太田省吾理事が、「展望というものは、こついつた会を何度でも開く中でしか出てこない」と述べた言葉をもって、今回のセミナーの報告に代えさせていたきたいと思えます。



セミナーの様

セミナー内容 (7月24日、世田谷パブリックシアター)

- 崔昌吉 (大邱大学校国文学科専任講師、韓国戯曲作家協会理事) 洪海星の演劇人生
- 金一英 (慶山大学校国文学科教授) 「土月会」と「劇芸術研究会」の演劇
- 岸田理生 (岸田理生カンパニー主宰) 「21世紀日韓交流の展望 - 歴史から何を学ぶか -」によせて
- 平田オリザ 交流展望私感 歴史から何を学ぶか



ひらた おりざ

1962年生まれ。国際基督教大学教養学部人文科学科卒業。1983年に劇団「青年団」を結成。代表作に『東京ノート』『ソウル市民』。演劇論集『現代口語演劇のために』などがある。近年は、海外の演劇人との合同プロジェクト、全国各地また海外(オーストラリア、フランス、韓国)でワークショップを行う。(財)舞台芸術財団演劇人会議評議員。(財)2002年ワールドカップサッカー大会日本組織委員会理事。(写真提供:毎日新聞社)

日本における韓国・朝鮮研究 研究機関編 ①

日本で韓国・朝鮮研究を行っている研究機関の活動状況をまとめました。

九州大学 韓国研究センター

<http://www.kyushu-u.ac.jp/somubu/kokusaikoryu-ka/korean/koreatop.htm>

2000年1月19日開所。韓国国際交流財団（Korea Foundation）の助成を受け、韓国に関する研究と教育を推進し、九州大学と韓国との学術・文化交流の拠点となる施設としてセンターを設置した。

東京大学 東洋文化研究所

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp>

1941年11月26日、東洋文化の総合的研究を目的として、東京（帝国）大学に設置創設された。東洋文化に関する総合研究を行うことを目的とし、現在では汎アジア部門、東アジア部門、南アジア部門、西アジア部門の4部門で研究活動を行っている。

研究活動

2000年3月31日から、1868年～1945年の間に出版された朝鮮関係日本語図書（雑誌を含む）に関する書誌・所在情報データベースである「近代朝鮮関係書籍データベース」のウェブ上での供用を開始した。

定期刊行物：東洋文化研究紀要、紀要別冊、東洋文化

学習院大学 東洋文化研究所

<http://www.gakushuin.ac.jp/ori-off>

1952年設立。朝鮮を中心としたアジア文化研究を行うほか、設立以来『朝鮮王朝実録』ほか朝鮮の漢籍の出版を行っている。学内専任教員を中心に学外の研究者を招いて構成するプロジェクトチームによって研究が行われる。また、1983年に財団法人友邦協会、

社団法人中央日韓協会より学習院が寄託を受けて「友邦協会・中央日韓協会文庫」の保管・管理を行っている。

研究活動

「戦後東アジアにおける国際秩序」（2000年度新規プロジェクト）
「近代移行期東アジアの社会と思想」（朝鮮戸籍大帳の調査分析）
定期刊行物：東洋文化研究

東北大学 東北アジア研究センター

<http://www.cneas.tohoku.ac.jp>

1996年5月11日設立。東北アジア地域に関する地域研究を学際的および総合的に行う。地域交流、地域形成、地域環境、文化・社会経済政策、資源・環境評価の各部門に分かれる。ロシア研究が中心だが、韓国を含む東北アジアの各国からも多数の客員教授・研究員を受け入れ、研究活動を行っている。

研究活動

共同研究「東アジアの儀礼・芸能における身体と社会の表象」（1997～1999年度）
共同研究「中国東北部白頭山の10世紀巨大噴火とその歴史的効果」（2000～2002年度）
講演会「韓国の歴史認識と歴史教科書」（鄭在貞客員教授、1999年度）
定期刊行物：東北アジア研究、東北アジア地域研究

国立民族学博物館

<http://www.minpaku.ac.jp>

1974年創設。民族学に関する調査・研究を行うとともに、その成果に基づいて民族資料の収集・保管・展示公開ならびに共同研究などの活動を行い、これらを通して世界の諸民族の社会と文化に関する情報を人々に提供し、諸

民族についての認識と理解を深めることを目的とする。

研究活動

「『もの』を通してみた朝鮮民俗文化」
「日本における韓国文化の表象」（重点研究プロジェクト「文化表象の博物館人類学的研究」）

定期刊行物：国立民族学博物館研究報告、国立民族学博物館研究報告別冊、Senri Ethnological Studies、国立民族学博物館調査報告、民博通信

日本貿易振興会アジア経済研究所

<http://www.ide.go.jp>

アジア経済研究所は1960年に通商産業省所管の特殊法人として発展途上国・地域の経済、政治、社会の諸問題に関する基礎的・総合的研究を行う社会科学系研究所として設立された。1998年に日本貿易振興会（ジェトロ）と統合し、すべての発展途上国・地域との貿易の拡大および経済協力の促進を図ることを目的として事業活動を実施している。

研究活動

「韓国経済の21世紀の展望」
「アジアにおける階層構造の変動と中間層論の現在」
専門講座「朝鮮半島情勢をどう見るか？ 南北共同宣言と日本への影響」

韓国対外経済政策研究院との共同研究
「21世紀日韓経済関係研究会」（2000年5月成果発表）

定期刊行物：アジア経済（月刊）、The Developing Economies（季刊）、アジア動向年報、アジア研ワールド・トレンド（月刊）、現代の中東（年2回）、ラテンアメリカ・レポート（年2回）、アフリカレポート（年2回）

実名の韓国、匿名の日本

原 武史

明治学院大学助教授

しようとするのに対して、日本では匿名のままにするのをよしとする傾向がある。犯罪を未然に防ぎ、個人のプライバシーを保護するという点では確かに日本式の方が望ましいといえるが、韓国式を徹底させれば個人が自らの発言に対して責任をもつという原則が、社会全体に確立されるように思われる。

それにしても、韓国と日本の違いは一体どこから生まれたのだろうか。直ちに答えるのは容易でないが、私にはこの違いは決して昨日今日に始まったのではなく、両国の相異なる歴史に根差しており、もっといえば朝鮮王朝と徳川日本における国王や將軍に対する直訴の違いに通じているような気がするのだ。

拙著『直訴と王権』で明かしたように、朝鮮王朝では十八世紀になって、国王の行幸途上での直訴が合法化されるようになり、国王正祖は在位二十四年間に、何と四四二七件もの直訴を受け付けるまでに至っている。直訴をしたのは、上は両班から下は賤民まですべての身分にわたっているが、どの身分に属する人間でも、訴状文のほかに居住地や職業、氏名を記入することにしていた。国王の日々の身辺雑事をくまなく記録した『日省録』には、いつどこ誰が何を訴えたのが逐一書き留められている(直訴の詳細な分析については、韓相權『朝鮮後期 社会と訴冤制度』、一潮閣、一九九六年を参照)。

ところが徳川日本では、將軍への直訴はタブーとされ、わずか数件しか確認されていない。しかも一件の例外を除いて、直訴の首謀者は獄中にながれるか死罪に処せられている。また直訴した年や氏名すらも不明な場合がある。最も有名なのは、一六五二(承

応元)年に起こったとされる下総の木内惣五郎、通称

佐倉宗吾による徳川家綱への直訴であるが、これすら木内の生没年からして明らかでなく、直訴自体も史実ではなかったとする見方が強い。もちろん裁判制度は存在していたから、何も訴えることができなかったわけではないが、直訴が頻発した朝鮮王朝との違いは歴然としている。

拙著でも触れたように、朝鮮と日本のこうした違いの背景には、前者では儒教が本家の中国以上に、支配イデオロギーとして浸透したのに対して、後者では前者の儒教に相当する確固としたイデオロギーがなかったという歴史的事実があるように思われる。とすれば、朝鮮王朝 韓国に関する限り、前近代的で封建的とされてきた儒教思想が、かえって「個人」の析出を容易にする社会を作り出してきたともいえる。このパラドックスをどう説明するかは、今後の政治思想史学の重要な課題の一つとなるだろう。



はら たけし

一九六二年生まれ。早稲田大学政経学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究所博士課程中退。国会図書館職員、日本経済新聞記者、東京大学社会科学研究所助手、山梨学院大学助教授などを経て、現職。専門は日本政治思想史。著書に、『直訴と王権』(韓国語版も刊行)、出雲という思想、『民都』大阪対、帝都』東京など。

韓国のニュースを見ていて興味深いのは、キャスターや記者が、氏名だけでなくメールアドレスを公開していることである。視聴者に向かって、「私の報道姿勢や取材に対してご意見やご感想があれば字幕のアドレスまでどうぞ」ということなのだろうが、記者はまだしも、美人のキャスターが出てきたりすると、アドレスを公開してしまっただけで大丈夫なのか、などと余計な心配をついしてしまふ。

それだけではない。街頭で取材される一般市民の方も、ほんの数秒間のインタビューですら、氏名はもちろん、職業、簡単な住所なども一緒に字幕に出ることが多い。職業の代わりに、「 中学一年」「主婦」「罹災民」などが出ることもある。これもまた、著名人や有識者を除けば、基本的に氏名すら一切明かさない日本との大きな違いといえよう。

つまり韓国では、なるべく実名や個人情報公表

日韓文化交流基金事業報告

第16回日韓文化交流基金韓国訪問団

八月二十二日から二十五日まで、当基金代表団が訪韓いたしました。

政府要人への表敬訪問や、研究者・文化人との懇談を行い、韓国における日本大衆文化開放や、今後の日韓文化交流について意見交換を行いました。また、藤村団長主催レセプションの席上において、第2回日韓文化交流基金賞の授賞式を行いました。

日程

期日	日程
8/22 (火)	ソウル到着 午後 プリーフィング 寺田大使主催晩餐会
8/23 (水)	在ソウル日本人会役員との懇談朝食会 午前 金鍾泌韓日議員連盟会長表敬訪問 午後 在ソウル特派員との懇談昼食会 李漢東國務総理、朴智元文化観光部長官表敬訪問 韓日文化交流基金主催晩餐会
8/24 (木)	林昌烈京畿道知事表敬訪問 午前 水原視察(水原城) 午後 基金訪日フェロウシップ研究者との懇談 藤村団長主催答礼レセプション 第2回基金賞授賞式
8/25 (金)	帰国

参加者

団 長 藤村正哉	基金会長、 三菱マテリアル(株)相談役
副団長 熊谷直博	基金理事長
顧問 竹内 宏	(財)静岡総合研究機構理事長
顧問 戸塚進也	基金常任理事、元衆議院議員
顧問 三浦 隆	基金理事、 桐蔭学園横浜大学教授
団 員 逢澤義朗	埼玉県議会議員、 (社)日本食品衛生協会監事
団 員 饗庭孝典	基金評議員、杏林大学客員教授
団 員 小山敬次郎	基金理事、目白大学教授
団 員 竹下勅三	基金理事、 (株)神戸製鋼所常任顧問
団 員 千澤忠彦	(社)日本電機工業会常務理事
団 員 外門一直	東京電力(株)顧問、 前電気事業連合会副会長
団 員 檜崎正博	基金理事、関電産業(株)社長
団 員 久一昌三	基金理事、事務局長
団 員 文屋啓範	(財)日本国際交流センター プログラムオフィサー
団 員 矢森 智	(財)関西電気保安協会顧問

(敬称略、団員は五十音順)

金鍾泌韓日議員連盟会長表敬訪問 藤村正哉
団長(左)と金鍾泌会長



7 ~ 9月

訪日団

団体名	計	男	女	期間
高麗大学校夏期日本語 研修訪日団	17	7	10	6/20-7/20
韓国教員訪日研修団 (初・中・高)	20	18	2	9/19-9/28
韓国大学生訪日研修団	20	12	8	9/26-10/5

訪韓団

団体名	計	男	女	期間
群馬県教員訪韓研修団	20	15	5	9/26-10/5

韓国中高生研修事業

一九九九年から韓国の中学生・高校生の訪日研修に対する支援が開始され、今年には九月の下旬から韓国教育部国際教育振興院が派遣する研修団が来日し、関西地区を中心に史跡見学や日本の中学・高校生との交流などのプログラムを行っています。

高校生(第一陣) 九月十九日 九月二十三日
九十名

高校生(第二陣) 九月二十六日 九月三十日
九十名

日韓ボーイスカウト・ ガールスカウト交流事業

基金は一九九九年度からボーイスカウト日本連盟に交流事業の委託を行っています。今年度は韓国のボーイスカウト百名とガールスカウト五十名とそれぞれの指導者が来日しました。ボーイスカウトは七月二十七日から八月十日まで、ガールスカウトは八月六日から八月二十日までの十五日間にわたり、日本の各地でスカウト大会やホームステイ、フォーラムなどの多彩なプログラムに参加し、相互の交流を深めました。



日韓スカウトフォーラム

報告書

この期間に以下の事業の報告書が完成しました。
基金図書センターをご覧ください。

日本大学生訪韓研修団

(2000年2月29日
- 3月9日実施)

日本大学生訪韓研修団

(2000年3月14日
- 3月23日実施)



理事会報告

4月3日に予算理事会が開催され、2000年度予算が決定いたしました。6月12日に決算理事会が開催され、1999年度事業決算を行い、理事会の承認を得ました。

韓国図書翻訳出版事業

「韓国の学術と文化」シリーズ新刊

以下の二冊が韓国図書翻訳出版事業の一環として法政大学出版社から刊行されました。

兪弘濬著、大野郁彦訳『私の文化遺産 踏査記』 南道踏査一番地(原題同じ) 一九九三年刊行 創作と批評社。

朝鮮半島という「博物館」を見て歩き

歴史と美を人々の日常に取り入れるために綴った記録。透徹した鑑賞と平易な説明、率直な感想や批評は、多くの読者に支持されベストセラーになった。本巻では、隠遁者が落ちのび、罪人が流された半島最南端の康津と海南を皮切りに、礼山修徳寺、慶州感恩寺、潭陽の亭と園林などを巡る。兪弘濬著、宋連玉訳『私の文化遺産 踏査記』 山は川を越えられず(原題同じ) 一九九四年刊行 創作と批評社。

世界遺産に指定された慶州・石窟庵の釈迦如来像は、古代統一新羅の宗教と美術と技術が見事に融合した仏教美術の傑作だが、その運命は数奇にして過酷。その保存の苦闘の跡を見ても、近代人の知恵は古代人よりはるかに浅いことを証明するものでもなかった。文明批評家の目をもつての踏査行は、時空を自在に超えて読者を誘う。



二〇〇一年度訪日・訪韓フェローシップ

二〇〇一年度分の訪日・訪韓フェローシップの申請期間は二〇〇〇年十月末日までです。訪日フェローシップは在韩国日本国大使館・総領事館で受け付けを行い、訪韓フェローシップは基金にて受け付けを行い

ます。申請を予定している方は、お早めにお問い合わせください。また、当基金ウェブサイトで重要事項と申請書書式をダウンロードできますので、ご利用ください。



図書センター情報 韓国の統計、年鑑、白書

書名	発行	所蔵年
教育統計年報（文教統計年報）	教育部	74、78、79、85～89、97～
労働白書	労働部	97～
青少年白書	文化観光部	96、97、99～
外交白書	外交通商部	97～
経済白書	財政経済院	77～80、82～86、88、96～
韓国統計年鑑	統計庁	60、62～67、90～
環境白書	環境部	97～
ソウル統計年報	ソウル特別市	75、78、83、85～87、91～
韓国出版年鑑	大韓出版文化協会	66、72、78、79、83、86、96、97、99～
東亜年鑑	東亜日報社	91、96～
大法典	法典出版社	96～
連合年鑑	連合通信	88～91、96～
韓国映画年鑑	映画振興公社	78～82、84、85、87、89～93、96～
韓国経済年鑑	全国経済人連合会	56、55、78、79、83、85、87、99～
韓国教育年鑑	韓国教員団体連合会	85、89、91、93、96～
文芸年鑑	韓国文化芸術振興院	77～79、85、92～
韓国新聞放送年鑑	韓国言論研究院	78、80、82、97～
韓国学校名鑑	韓国学校名鑑編纂会	72、79、86、88、97～

* 3年以上継続・所蔵のある主なものです。年度によってはこれ以外のタイトルの所蔵もありますので、お問い合わせください。

お知らせ

「基金事業コーナー」ができました

基金事業に関する情報を提供するために、関連の資料をまとめて「基金事業コーナー」を設けました。主な資料には、日韓・韓日合同学術会議の記録、事業報告書、出版物などがあります。いずれの資料も貸出不可で、館内閲覧のみとなっています。

図書センター改装のため閉館

図書センターは、資料の増加に備えて、年末に増架などの改装工事を行います。そのため、12月1日から2001年1月8日まで、年末年始の休館とあわせて休館いたします。その間の閲覧



室の利用・貸出などのカウンター業務・レファレンスはご利用になれません。ご迷惑をおかけいたしますが、ご了承ください。

基金ホームページURL

<http://www.asc-net.or.jp/jkcf>

ホームページ E-mail : jkcf@asc-net.or.jp

図書センター E-mail : lib1jkcf@oak.ocn.ne.jp

発行 (財)日韓文化交流基金
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目12番1号
虎ノ門ワイコービル3F
電話 03-5472-4323 FAX 03-5472-4326
発行日 2000年9月28日